

## 2. 放射性廃棄物集中処理設備(集中環境施設)の概要

福島第一原子力発電所では、昭和46年3月に1号機が運転を開始し、昭和54年10月に6号機が営業運転を開始して以来、現在まで6基の原子炉を順調に運転しています。

運転に伴って発生する放射性廃棄物を閉じ込めたドラム缶は、発電所内の固体廃棄物貯蔵庫に保管していますが、その本数が多くなっているため福島第一原子力発電所では、濃縮した放射性廃液をさらに乾燥して粉末化しこれを圧縮固化したり、布や紙などの可燃性物質は焼却

して灰にして容積を減らすなどにより、ドラム缶の発生量を減らし、より安全で優れた減容能力をもつ新しい放射性廃棄物集中処理設備を設けました。

この設備は4号機南側に位置し、延べ床面積約42,000㎡という大規模な建物です。昭和55年11月に着工し、昭和59年6月に竣工しています。

福島第一原子力発電所 放射性廃棄物集中処理設備(集中環境施設)配置図

